

生涯学習大沼令和6年度第1回の教養講座を開催しました

6月21日(金)茨城県立歴史館の出前講座を29名の入講者と聴講しました。

演題『徳川慶喜 — 孤高の十五代将軍 — 』

講師 茨城県立歴史館 史料学芸部 学芸課長 由波 俊幸 様

徳川慶喜公は水戸藩主徳川斉昭と正室登美宮吉子(有栖川宮織仁親王王女)の7男として生まれた、そのため幕府内でも公家と武士の遺伝子が有る事で特異的な存在であった。

また、江戸幕府最後の十五代将軍としては知られているが、幕末から明治政府誕生に至る激動の時代で行った政治行動の功績はあまり知らされていない。

講演は、260年と続いた江戸幕府が開港要求や尊王と攘夷による動乱の幕末の時代に十五代将軍となった徳川慶喜公が、現状政治がうまく回らないのは公家と幕府により二極化で行われているのが要因と考え、公家を中心とした政治にかえるため大政奉還を行い政治改革をした事や、明治政府誕生までに行った政治活動の実状を詳細に紹介頂いた。

また、いち早く海外に目を向け欧州国家との交流を行い、海外の近代的な文化を広めたのも徳川慶喜公の功績で有るとのこと。間もなく新一万円札の肖像となる渋沢栄一は、慶喜公に仕えることがなければ「日本資本主義の父」と呼ばれる活躍も無かったであろうとのことである。

入講者も十五代将軍徳川慶喜公と言う人が、改めて近代日本誕生に貢献したことを知った事と思います。

生涯学習部 尾崎重美

